

未経験からの決断 支援の存在が挑戦の力



トレーニングファームで
培ったノウハウを
生かしたいこ作り



いちご農家
いけだともみ
池田智美さん
(白石町)



トピックス



磨き、稼ぎ、つながる農業

さが園芸888運動

農家が品質向上や規模拡大など経営力を「磨く」ことで所得を「稼ぎ」、それを目指す新たな担い手が確保され、産地が活性化するといった、次世代に「つながる」好循環を創出していくます。



ホームページ

就農希望者

トレーニングファーム
(期間: 1~2年)



独立就農



畑に立つという選択

農家の高齢化が進むなか、未経験ながら「畑に立つ」という選択をした若い人たちの姿が見られます。なぜ彼らはこの道を選び、どんな未来を描いているのでしょうか。今回は、新しく農業を始めた若手農家の想いに迫ります。

園地を継いで生まれた みかんリレー



通常なら3年かかる
みかんも園地継承なら
すぐに収穫



みかん農家
いわまつ かずたか
岩松和臣さん
(鳥栖市)

から教えてくれたことで、「不安はありませんでした」と力強く話します。力を入れているのは、糖度を高め、効率よく育てる工夫。「どうしたら甘くて美味しいみかんができるのか考えるのが楽しいんです」と充実した表情を見せる岩松さん。今日も、よりおいしく、具体的に試算できたことが就農へ後押しになりました。

相談からわずか3か月後には、園主さんと一緒に農作業を開始。作業を一

です。「来年は、さらに株冷処理を増やしていきたいですね」と意気込みを語ります。

「時間を調整しながら育児ができると思っていましたが、今は逆に休みの日に手伝つてもらうこともあります」と笑いながらも「苗からいちごを育て、収穫して、収入につなげる。その手応えがうれしいです」と話す池田さんは、学びながら試し、挑戦する。その積み重ねが、池田さんのいちごづくりを少しずつ前へ進めています。

いちごは、気温が低くなつてから果实のもとなる花芽(はなめ)をつける作物。しかし、昨今の猛暑で花芽の形成が遅れ、収穫が後ろ倒しになつています。その対策として今シーズンからは、苗を冷やして花芽を早くつける「株冷処理」に挑戦。これは、収益性が高い12月に安定的に出荷するための栽培技術を押してくれました。

池田さん「育児と仕事の両立を考えたとき、農業なら時間の融通がきくと思ったんです」。そう話す池田さんは、一児の母として子育てをしながら、2年前に会社員から「いちごさん」の農家に転身しました。就農にあたり勧められたのが、いちごのトレーニングファーム。「就農前に一から学べる環境があつたのは大きかったです。工夫次第で収益をのばせる」とも背中を押してくれました。

いちごは、気温が低くなつてから果实のもとなる花芽をつける作物。しかし、昨今の猛暑で花芽の形成が遅れ、収穫が後ろ倒しになつています。その対策として今シーズンからは、苗を冷やして花芽を早くつける「株冷処理」に挑戦。これは、収益性が高い12月に安定的に出荷するための栽培技術

農家の高齢化が進むなか、未経験ながら「畑に立つ」という選択をした若い人たちの姿が見られます。なぜ彼らはこの道を選び、どんな未来を描いているのでしょうか。今回は、新しく農業を始めた若手農家の想いに迫ります。



通常なら3年かかる
みかんも園地継承なら
すぐに収穫



みかん農家
いわまつ かずたか
岩松和臣さん
(鳥栖市)